

保護者の皆さま

令和5年(2023年)11月13日

豊能町立東ときわ台小学校  
校長 張 裕 太 郎

## 令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取組みについて

向寒の候、保護者の皆さまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、4月18日(火)に悉皆調査として実施しました6年生の「全国学力・学習状況調査」の結果分析を行いました。本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、平成19年度より実施されています。本校においては調査人数自体が少ないため、統計の数字だけで「良い・悪い」を判断しづらい面もありますが、課題については、校内で共有し、改善に向けて取組みを進めてまいります。

以下に、今回の結果分析から見えてきた「プラスの面○」「マイナスの面●」および「課題克服に向けての取組み」をまとめましたので、ご家庭でも話題にいただけますよう、よろしくお願い致します。

なお、豊能町教育委員会による町全体の分析結果は、本町HPにて公表されています。また、全国学力・学習状況調査の問題・調査用紙やその分析結果は、国立教育政策研究所HPで公表されています。それぞれご覧ください。

### 1. 学力状況調査の結果から

学力状況調査の結果は、国語・算数ともに、府や全国の平均値とほぼ同じでした。全体通して概ね良好な結果でしたが、更なる努力が必要な項目もありました。

**国語** ○多くの問題で、正答率が府・全国平均を上回っている。

○無解答率が低い。また「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた割合が高かった。

●これまで課題の見られた漢字については改善が見られたが、まだまだ高い正答率とは言えない。

●複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり、書き表し方を工夫したりすることに課題が見られた。

#### 「課題克服に向けての取組み」

◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う指導の充実

・情報と情報との関係を捉えながら、語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりするなど、情報の関係を表す方法を学習する機会が必要である。様々な情報の整理の仕方を提示した上で、児童が自分の目的に合った方法を選ぶことができるように指導するなどの工夫を取り入れていく。

◎図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

・自分の考えを分かりやすく伝えるためには、図表やグラフなどを用いて、書き表し方を工夫することが大切である。必要に応じて、教員が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるような活動を設定する。

◎漢字学習については、送り仮名を含め、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章の中で正しい使い方を習得できるよう、今回の結果を踏まえ、改めて指導していく。また、漢字を使って文章を書く機会を意識して設定し、漢字を活用しながら自分の考えを書くなど、生活に根ざした学習を通して、基礎基本の定着をめざしていく。

◎無解答率は低いものの、更なる問題に対する「無解答」を克服するために、長文や少し難解な問題に試行錯誤しながらでも粘り強く取り組もうとする意欲や態度を、日々の学習の中で育てていく。

◎読書習慣の定着が、「読むこと」の結果にも表れている。今後も指導を継続していく。

**算数** ○これまで課題があった記述式の問題については、昨年度に引き続き府・全国平均を上回り概ね良好であった。

○無解答率が低い。また「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた割合が高かった。

●算数の基礎基本ともいえる「数と計算」の正答率が、昨年度同様高くなかった。

●「図形」領域全般に課題が見られた。

●条件から関係性を判断し、その理由を記述することや、表から条件に合う数を読み取ることに課題が見られた。

#### 「課題克服に向けての取組み」

◎情報を読み解く力の育成

・これからの社会を生きていくために必要な資質・能力の一つに「情報を読み取る力」があげられる。情報の読み方や考え方、態度が十分育っていれば、同じ情報を得ても、行動や結果が変わることがあるからである。今回の結果を踏まえ、複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実を図る必要がある。具体的には、目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにする、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からどのように考えたのかを明らかにして、他者に分かりやすく説明できるようにする、このようなことを大切にしていく。

◎公式を覚え利用できることに留まらず、与えられた条件などにおける関係性などの説明ができるようにする指導の充実

・三角形の面積を求めるために、ただ公式を覚え利用することに留まらず、必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さとの面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることなどが重要である。その際、平行な直線にはさまれた底辺が等しい2つの平行四辺形や2つの三角形の面積を比べることで、底辺と高さの関係について理解でき説明できるなどの指導の充実が必要である。

◎指導方法の工夫改善

・基礎基本は概ね身につけているが、例えば、「 $50 \times 40$ 」や「 $(151 + 49) \times 3$ 」などといった計算をする基本的な問題(1(4)、3(3))では、どちらも府・全国平均とも下回るなど、昨年度に引き続き課題が見られる。反復練習によって体得するものを軽視することなく、繰り返し基礎的・基本的問題に取り組むことを改めて大切にしていく。

・これまで同様、算数の各単元に対して十分な習熟をはかる一方で、課題を見つけて筋道を立てて考え、求め方、理由などを言葉で表現する力、結果をもとに考察する力をつけ、学習したことを文章でまとめる機会を、より多くつくる。また、目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えをまとめて文章に書き表す指導をしていく。

### 2. 学習状況調査の結果から

本校の今年度の学校教育目標は「一人ひとりを大切に、ともに学び・活動する喜びに満ちた学校」、今年度のスローガンは「たくましく(自立・挑戦) しなやかに(つながり・協働) のびていく(探求・創造)」です。児童質問紙から、子どもたちの生活や家庭学習の様子、授業に対する意識の調査結果から見られる特徴に加え、本校の目標と関連の深い項目を衷心に取り上げました。これは、保護者・地域の皆さまに、本校の子どもたちの学習の状況をお知らせすることで、本校の教育に更なる関心を高め、地域ぐるみで子どもたちの育ちを支え、今後の充実・発展につなげたいと考えたからです。

今年度は、ほぼすべての項目で、府や全国と比べ肯定的な意見が多い結果でした。しかし、若干ではありますが課題も見られました。これらについては、校内で共有し、今後も改善に向けて取り組んでまいります。(以下、調査結果を基に本校の分析・考察を述べておりますが、この分析・考察はあくまでも一つの側面です。)

#### 肯定的な意見の多かった項目

○「自分には、よいところがあると思いますか」

→今まで課題にあげ続けていたこの項目について、今年度は高い傾向にあることが分かりました。一方で、否定的な回答をしている児童が一定数いることから、結果だけでなく、過程を重視する指導を行い、「あきらめずに粘り強く生き抜く力」の育成を図ることが必要であると考えます。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

→これからも、児童自身の日々の振り返りに加え、児童一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、積極的に評価していくこ

とを大切にします。

- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」  
→小規模校となった今、少人数で学ぶことができる、東ときわ台小の良さの一つが表れた結果であると捉えています。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」  
「友達関係に満足していますか」  
「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」  
→今後も、全ての児童にとって、学校に行くのが楽しい、と感じられるよう、全教育活動を通じた指導を継続していきます。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」  
→すべての児童が「いけない」と判断しており、規範意識の高まりが見られます。府・全国平均と比べても高い傾向が見られます。今後も、全ての児童が、全ての場面で、いじめはどんな理由があっても許されない行為であるという強い認識を持てるよう、全教育活動を通じた指導を継続していきます。
- 「人が困っているときに、進んで助けていますか」  
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」  
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」  
→日頃から、学級や縦割り活動、家庭・地域を含め、自分の周りの人との関わりを持つことができ、その中で人のために、地域や社会のために頑張りたいと思っている姿が感じられます。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」  
「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」  
→見解の相違を前提としながら、他者と対話し学び支え合うなど、教室の仲間と「ともに学び・活動する」意識が高いことがわかります。
- 「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」  
「算数の勉強は好きですか」「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」  
「英語の勉強は好きですか」「英語の勉強は大切だと思いますか」  
→これらを含む教科学習に関するすべての設問で、肯定的意見が多い結果が見られました。各教科の授業に対して前向きに捉えられているといえます。これは、これまで授業改善を含む学習意欲を育む取組みを継続して行ってきた成果の表れだと考えています。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」  
「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか」  
「読書は好きですか」  
→いずれも平均を大きく上回るとも高い割合で、肯定的意見や回数が多かったです。委員会活動を含め、様々な機会に積極的に児童・教職員が読書に関する活動を行っていることも大きな要因だと考えます。

#### 肯定的な意見の少なかった項目

- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」  
→決して低い数字ではありませんでしたが、府・全国平均を下回りました。前述の通り、学校に行くことを楽しいと思っている児童が多い一方で、困りごとや不安がある時に、教員や学校にいる大人にいつでも相談できると回答している児童・生徒の割合が決して高いとは言えない結果から、学校全体として教員と子どものよりよい関係づくりや、子どもに対する相談機能を高めていくことが必要であると考えます。

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」  
→府の平均は上回っていましたが全国平均を下回っており、これまで同様課題として捉えざるを得ない結果でありました。学習習慣や学習の積み重ねが「学力の伸び」につながることから、具体的な改善や取組みが必要だと考えます。
- 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」  
→全国で60%以上の児童が週3回以上使用していると答えましたが、本校はそれを大きく下回る結果となりました。本校の場合、決して推進するスキルのある教員の有無等が要因ではなく、インターネット回線速度が遅い、そもそもログインできない、などの校内のインターネット環境に課題があります。今後も町教育委員会と連携を図り、子どもたちの学習環境の向上に努めてまいります。

#### 《課題克服に向けての取組み》

##### ◎子どもたちが安心して学び成長できる学校環境づくり

自分の良さに気づき、それを認めることができること（自己肯定感）は、これまで高くない傾向が見られました。今年度「自分に良いところがあると思う」に対して肯定的な回答をしている児童は、前述の通り高い傾向にあることがわかりました。「友達関係に満足していますか」などの他の項目からも、友だち関係に満足し、日常において幸せな気分になることがあると感じている傾向にある本校の児童は、府・全国平均と比べても高く、情緒面で安定している児童が多いと推察できます。このことは、以前よりお願いをしていました「学校・家庭・地域において、子どもたちの話をたくさん聞いていただく」ことの成果が表れてきているのだとも考えています。身近な大人に存在を認められ、褒められ励まされることが、子どもたちの自信と自己肯定感を高めているのだと改めて感じています。また、家庭での基本的な生活について「朝食を毎朝食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」などの肯定的回答が高い割合であり、良好な結果でした。これらのことにつきまして、感謝申し上げますとともに、今後も引き続きお願いいたします。

一方で、悩みを先生や学校の大人に相談できると回答している児童の割合は、府・全国平均を下回りました。この結果を受け止め、様々な悩みや不安を相談しやすい教育相談体制づくりや、生活アンケートの毎学期の実施に対し、児童への手立てを、担任一人で考えるのではなく学年団・学校として対応していくことなどに努めていきます。その上で、人間関係の構築や自分の考えを心配なく発信できる環境づくり、具体的には、自尊感情を高める活動、児童に任せて自分たちで行う活動、試行錯誤する過程を大切に活動などを行い、認めたり褒めたり励ましたりしていきます。そして、子どもたちが落ち着いた学校生活を送り、教職員や他の子どもと築いた良好な関係を土台として、自分の力が最大限伸ばせる、安心・安全な学校づくりに改めて取り組んでいきます。

##### ◎家庭学習について

家庭学習については、これまでと同様課題が残る結果となりました。今年度の調査では項目としてありませんでしたが、学校だよりNo.9で、とよのチャレンジ（体力調査）の結果として「学習以外で、1日にどのくらいテレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンを見ていますか」について長い時間を答える児童の割合が高かったことをお伝えしました。授業以外の学習時間やゲーム等をする時間と、教科の平均正答率の間には関係があります。確かな学力を身に付けるには、ゲーム、動画視聴の時間を見直したり、自主的な学習を計画したりするなど、授業時間以外の学習習慣を定着させることが大切です。

言うまでもなく、家庭と学校が連携・協力し合って大切なお子さまを育てていくことが重要です。そのためにもご家庭での過ごし方について、また、ゲームや動画視聴、スマートフォンを使用する時間などについて、家庭でのルールづくり等、お子さまとお話し合ってください。加えて、お子さまの日々の学習ノートや宿題をご覧いただき、見守り、励ますなどの声かけ、家庭学習や読書時間の確保も、引き続き各家庭で取り組んでいただきたいと思います。学校におきましても、ご家庭での学習習慣につながる『家庭学習ウィーク』といった取組みを考えてまいります。学校でもご家庭でもお子さまが、自分自身で考え、判断し、実行するなど、自立していくためにも、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。